

## 令和6年度 リーベルネットワーク合同研修会

1. 開催日時：令和6年8月2日(金) 14時00分～16時00分
2. 開催場所：立花市民センター（イベントホール）
3. 参加者：計69名 <内訳> 学校関係者40名（24校＋教育委員会） ⇒長峰小学校・川崎小学校・忠見小学校・立花小学校・星野小学校・福島小学校・上妻小学校・黒木西小学校・岡山小学校・三河小学校・筑南小学校・黒木小学校・八幡小学校・見崎中学校・黒木中学校・筑南中学校・南中学校・星野中学校・立花中学校・西中学校・福島中学校・上陽北浜学園・矢部清流学園・筑後特別支援学校・八女市教育委員会  福祉関係者29名（17機関） ⇒悠・ゆうゆう・よろず屋・サポートセンター陽だまりの里・ほっぷ・candyhouse・animo・八女総合療育館・みらいく・いこいの樹・リーベル等その他
4. 内容  1. 講演 演題：「将来へ向けた選択肢の広げ方」 講師：障がい者自立訓練サポートセンターわーよか センター長 後藤祐介 氏  ○ 卒業後の選択肢となるサービス ○ 進路選択に利用できるサービス ○ 進路選択とサポートの例  1) 障害福祉サービス (1) 訓練系 ①自立訓練（機能訓練）・・・一定期間身体機能の維持・向上のため ②自立訓練（生活訓練）・・・一定期間生活能力向上のため ・通所型 ・訪問型 ・宿泊型がある  (2) 就労系 ① 就労移行支援 ② 就労定着支援 ③ 就労継続支援A型 ④就労継続支援B型  (3) 居住支援系 ①共同生活援助（グループホーム）  (4) 就労に係る主な相談先 ①発達障害者支援センター

## ②障害者就業・生活支援センター

### (5) 進路選択に利用できる制度

#### ①就労選択支援事業

○施行・・・R 7. 1 0月～

○対象者は

- ・特別支援学校の生徒
- ・就労移行の利用を考えている人
- ・B型事業所の利用を考えている人
- ・R 9. 4月～・A型事業所の利用を考えている人
- ・就労移行の利用をしていて延長を考えている人
- ・現にA・Bを利用しているが選択利用を希望する人

○実施方法・期間

①時期：申請前（選択前）、卒業年次より前の年次

② 期間：原則1カ月（最大2カ月）

③ 方法：通所

：自宅（学校）訪問

現場実習（特別支援学校）

### (6) 就労選択支援が必要なのか

\*まとめ・・・就労に必要なことはチャレンジの機会があること（チャレンジをすることで選択肢が増える）。就労選択支援事業は選択肢が増えると可能性が広がる。

## 2. 講演

**演題：「不登校当事者に寄り添う進路支援」**

**講師：ちくご地域ユースサポート不登校支援部会**

**部会長 水田康弘 氏／世話人 水田綾子 氏**

- 1) ちくご地域ユースサポート不登校支援部会とは
  - (1) 生きづらさを抱えた子どもたちの居場所であること
  - (2) 保護者同士の憩いと助け合いの場であること
- 2) 現状・・・不登校児童生徒数24万4940人で過去最高
- 3) 親の問題（親の変化）
- 4) 支出・収入の変化
- 5) 子どもの生きづらさ
  - (1) 自殺数の増加
  - (2) 若者の自殺、75%が速やかに学校復帰していた過去があった

- (3) 学校へ戻ることがゴールではない
- (4) 不登校は子ども達が生き延びるための戦略
  
- 6) 異なるタイプの不登校
  - (1) 家族が福祉などの支援を必要とする不登校・・・ヤングケアラーなど
  - (2) 一般的な家族と暮らす中での不登校・・・居場所や親の会参加者
  
- 7) 不登校支援の中では「無理をさせない」「見守りましょう」というメッセージが多いですが「見守る」だけでいいと思いますか？
  - (1) 学校に行かなくてはいけないという思い込みを外す
    - ・・・学校を休んだ方がいいよチェックリストの活用
  
- 8) 親にできることは
  - (1) 色々な経験を一緒におこなう
  
- 9) これはやめてほしい
  - (1) 別室で過ごす、二時間目までに帰るといような約束を破ってクラスに連れていく
  - (2) 平気そうに見えても実は疲れている
  - (3) 「約束を守ってくれないんだ」と印象付けることになり、学校で安心して過ごせなくなる
  
- 10) 親と子が敵対する例
  - (1) 不登校になりゲームばかりで昼夜逆転 → やめさせようとゲーム機を取り上げる → 子どもは激怒
  - (2) 昼夜逆転・・・あえて生活時間をずらすためにやっていることもある。また、起立性調節障害などの影響があることも
  - (3) ゲームばかり・・・心身ともにつらい時、現実から目を背けるため、またゲームで大事な人とつながっていることもある
  
- 11) 発達性読み書き障害
  - (1) 日本の小学生の7%から8% (30人クラスに一人か二人)
  - (2) 形が似ていると分からない・・・
    - 「I T' SとI' M」「YOUとYES」
  
- 12) HSP (ハイリーセンシティブパーソン)
  - 人一倍繊細な人・・・5人に一人
  
- 13) 起立性調節障害
  - (1) 起立時にめまい、動悸、失神などが起きる自律神経の機能失調
  - (2) 学生の約10%

1 4) 高校の選択肢はどんどん増えています

(1) 通信制高校

(2) 学びの多様化学校（不登校特例校）・・・不登校児童生徒の実態に配慮した特別な教育を行う学校のこと。文部科学省は、小中高を含め2027年までに全都道府県への設置、将来的には300校の設置を目指しており、福岡県でも広がっている

1 5) 通信制高校の特徴

(1) 公立校は、博多青松高校の通信制だけ

(2) 久留米市内には、30人程度の小規模校から200人を超える大規模校がある

(3) 通学ペースが選べる

(4) スクーリングが宿泊形式の学校もあれば、そうでない学校もある

(5) 多くの学校が単位制なので留年がない

5. 参加者の感想

- ・就労に向けた支援を行っていただける施設の存在がありがたく感じた。
- ・不登校児童と接していますが、自分自身の対応にも反省する点があり学びになりました。
- ・体験の少なさが影響していることがよく理解できました。
- ・不登校になると保護者も苦しい状態になることを知ることができた。その家族にあった対応をしていきたいと思った。